

さっぽろテレビ塔のカウントダウンを合図に一斉スタートするランナーたち=26日午前9時



北海道新聞

発行所
北海道新聞社

郵便番号 060-8711
札幌市中央区大通西3-6
電話 011(221)2111
©北海道新聞社2011

速報

インターネットで道新ニュース
www.hokkaido-np.co.jp

ご購読申し込みは
0120-464-104

この速報は道新ぶんぶん号で作っています。マイクロボスにデジタルカメラ、パソコン、プリンターなどを積みイベント会場で速報や号外を作る北海道新聞社の多目的取材、宣伝車です。自家発電機を積み災害現場でも号外を発行することができます。

ぶんぶん号

1万人 札幌の夏 疾走



2012北海道マラソン

夏の道都を彩る2012北海道マラソン(道陸協、北海道新聞社などがつくる組織委員会主催)が26日、札幌市中央区の大通公園を発着とする42・195キロのコースで開かれた。男子は川内優輝(埼玉県庁)が2時間18

分38秒で、女子は吉住友里(大阪長居ACC)が2時間39分07秒でそれぞれ優勝した。26回目となる今大会は定員を昨年の9200人から1万1千人に拡大し、市民マラソンとしての性格が一層強まった。海外からも台

湾や香港など21カ国・地域から1555人がエントリー。スタート時間もこれまででの正午すぎから午前9時に繰り上げた。天候は曇り、気温29度、湿度63%(いずれもスタート時)。さっぽろテレビ塔の電光掲示

板によるカウントダウンを合図に一斉スタート。北大構内や道庁赤れんが庁舎など観光名所を巡るコースの沿道には多数の札幌市民が駆けつけ、暑さに負けそうなランナーを「もう少しだ、頑張れ」と励まし、力走を後押しした。

男子は川内、女子は吉住V



男子トップでゴールする川内優輝選手



女子で優勝した吉住友里選手



雨の中開かれた第1回大会=1987年

大会の位置づけ変遷



厳しい暑さの中、水を浴びるランナー =1991年



第9回大会、笑顔でゴールする有森裕子選手 =1995年

一層市民が主役に

北海道マラソンが産声を上げたのは1987年9月6日。雨のなか、札幌市厚別公園競技場発着で、招待選手を含め379人が道都・札幌を駆け抜けた。

当初は競技性を追求した大会として開催が認められた経緯がある。夏の過酷なシーズンに行われる五輪などの対策として、日本陸連から国内主要レースに格上げされ、世界選手権や五輪の代表選考レースにも

なった。大会経験者の活躍も目立ち、89年の第3回男子優勝の谷口浩美選手は91年の東京世界陸上で優勝、95年の第9回女子優勝の有森裕子選手も96年アトランタ五輪銅メダル。第8、11、17回大会を制したエリック・ワイナイナ選手はアトランタ五輪で銅、シドニー五輪は銀メダルに輝いた。

ロンドン五輪に出場した中本健太郎選手(安川電機)も6位入賞。山本亮選手(佐川急便)も大会経験者だ。

参加資格は当初、男子3時間30分、女子4時間と、ハードルが高かった。その後、徐々に緩和され、2009年から5時間となり、折からのマラソンブームもあり、参加者は飛躍的に増加。市民マラソン化を一段と進めた今年には1万1349人がエントリーし、参加人数が全国でも16番目の規模になる見通しだ。

コースは第3回から真駒内競技場発、中島公園着に変更され、09年から中島公園発、大通公園着に。今年初めて念願の大通公園発着が実現した。